

【高等学校用】
令和6年度学校評価 中間評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・ほとんどの評価項目が「おおむね達成できている」という評価だった中で、広報の充実については「十分達成できている」という評価であった。他の項目でもそれぞれの具体的取組みについて精査し、充実させていきたい。 ・キャリア教育に関しては、卒業学年の進路決定率が100%を達成できなかった。また、進学指導体制が十分に確立できなかった。次年度は、卒業学年に早い段階で進路希望を明確にさせるとともに、進学指導体制の充実を図りたい。 ・地域連携においては充実した取組みが増えてきた。情報発信、広報の効果もかなり上がってきており、全国募集2年目に向けてさらに地域を巻き込んだ取組みを行いたい。 ・美化活動、環境整備など生徒を主体とした取組みが浸透してきた。次年度はSAGA2024国民スポーツ大会も開催される。さらに生徒が主体的・積極的に関わる取組みを増やしていきたい。
------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	・北部地区唯一の総合学科高校として、多様性を生かすとともに、その特徴を磨き上げ、県内外から生徒を呼び込む魅力的な学びを実践する。 ・デジタルを活用し、実践的でクリエイティブな人材や、国際感覚豊かな人材を育成するとともに、東松浦の資源を活用した地域との協働を通して、地域社会に貢献する人材を育成する。
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標	(1)探究学習、地域連携の推進 (2)生徒の多様な進路への対応（特に大学進学への対応） (3)広報の充実
	・自己と真摯に向き合って将来を考え、進路実現に向け努力する生徒。 ・総合学科の学習に興味を持ち、自己の能力を高め、専門的な知識や技能の習得に努めようとする意欲を持った生徒。	・「産業社会と人間」等を通し個々のキャリア発達を促すための体系的なキャリア教育を実践します。 ・適性や進路に応じて、多様な学びができるような教育課程を設定します。 ・少人数学級編成や少人数指導、学び直し等を通して個に応じたきめ細やかな指導・支援を実践します。 ・学習、行事、生徒会活動、部活動等において地域と連携・協働した体験活動・探究活動に取り組みます。 ・デジタルを活用した最先端の学び、交流、体験に取り組みます。 ・多様な視点を取り入れるための国際交流や全国からの生徒募集を推進します。	以下のような資質・能力を育成します。 ・態度・価値観(学習観、自己理解、社会・文化理解、ライフデザイン、自己管理能力) ・知識・技能(基礎学力、専門的知識・技能) ・スキル(コミュニケーション力、コラボレーション力、プレゼンテーション力、課題発見・解決力)		

5 重点取組内容・成果指標				中間評価	最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力向上に向けた、学習習慣定着のための指導の実施 ○きめ細やかな学習指導の実施	○朝の青翔タイム(学び直しの時間)を継続的に行うなかで、基礎的な学力の定着を目指す。 ★「学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている」とする生徒数を75%以上にする。	・青翔タイムが始まる前に職員が早めに教室に行き、8時30分より落ち着いた雰囲気の中で青翔タイムを始める。 ・各学年で、少人数学級編成や少人数指導、学び直し等を通して個に応じたきめ細やかな指導・支援を行う。	B	青翔タイムは各学年で生徒の現状に合わせた課題を準備し、実施できている。授業では少人数指導やチームティーチングを行い、きめ細やかな指導を引き続き実施する。				教務	
	○ICT活用教育の実施	○社会に貢献する人材の基礎となる能力の育成のため、1年次生の80%以上が全商ビジネス文書実務検定3級相当の能力を身に付ける。 ○授業の効率化や生徒への多角的支援に向け、ICTを利活用して授業を実施している教員を70%以上にする。	・情報1などコンピュータを利用する授業では授業の導入でタイピング練習を導入する。 ・ICT機器の利活用方法を職員に周知し、利用している職員の意見交換等も行う。	B	情報1の授業ではチームティーチングで丁寧にタイピングの指導ができた。ICT機器の利活用については支援員の協力を得ながら実施できている。				ICT推進	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「豊かな心を身に付ける教育活動が行われている」と回答する割合を80%以上(生徒・保護者・職員で)にする。	・HR活動では、本校の生徒に理解しやすい内容の講話を行い、感想を書く時間を設ける。 ・事前学習をできる限り行う。 ・日々の授業や会話の中でも、生徒に豊かな心を身に付けるための情報を発信する。	B	生徒の実情や多様性を考慮した様々な講話を行うことができている。講話の後にはできるだけ早く感想を書く時間を確保し、ふり返りの時間としている。				教務(道徳教育等)	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめの早期発見・早期対応に努めている」と回答した教員を90%以上にする。	・年に3回以上、学校生活アンケートを実施して、いじめの早期発見に努める。 ・全校集会や担任等を通して、いじめ問題やSNS・ライン等の適切な利用について指導する。 ・いじめと思われる場面を発覚した場合、学年主任・担任等に報告し、情報を共有し、早期に対応する。	B	いじめが発覚した場合は、学年団、管理職と情報共有を速やかに行い、対応した。SNSを利用したいじめが多く発生した。SNSの活用の仕方を粘り強く指導したい。				生徒指導部	
	○自己肯定感の醸成	○「自分には良いところがある」と回答する生徒を65%以上にする。	・広報拡大WGとの連携を強化し、公式Instagram等で生徒会役員や部活動部員の活動様子、対外試合結果等を適時アップする。 ・朝・帰リHRを活用し、生徒会が中心となって新しい学校生活規範を提案する。楽しくて過ごしやすい学校づくりを目指す。	B	広報部による積極的なSNS発信により、生徒会活動等への理解、また行事等への関心も深まり、本校の良さが伝わってきている。引き続き、生徒会生徒を中心に本校生の自己肯定感・規範意識を高められる活動にしていきたい。				生徒会	
●健康・体づくり	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に良い食事をしている」生徒80%以上にする。	・朝食摂取状況調査及び食事内容について生徒との個人面談時期に詳しく聞き取りを行い、学校としてできることを検討したいと考える。日頃のHRでの声掛け、家庭科の授業、保健だよりや食育だより、青翔ニュースなどをとおして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高め、目標を達成できるようにする。	B	食と健康に関する調査を全校生徒を対象に行った。個別に詳しいアンケートを実施予定。生徒目線の食育だよりを掲示。地域の方による減塩教育を実施。				保健部	
	○綺麗で安心・安全な学校づくり	○校内外が安心安全な環境となるよう整備点検に努め、ゴミの持ち帰りや分別をはじめ校内環境美化や整理整頓に取り組んでいると感じる人の割合を80%以上にする。	・定期安全点検を隔月で実施する。 ・各クラス美化係による清掃活動や美化啓発物作成などを実施する。 ・さわやか清掃活動(校内外ボランティア活動)を前・後期各1回実施する。	B	・定期安全点検を隔月で実施、指摘箇所は施設担当者と連携し、速やかに対応した。 ・さわやか清掃活動を2回実施した。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○教職員の年次休暇取得平均日数を14日以上とする。	・毎週水曜日を定時退勤推進日に設定する。 ・学校閉庁日を設定する。 ・年休取得がしやすい職場の雰囲気づくりをする。	B	・定時退勤推進日に積極的に定時退勤を呼び掛けた。 ・夏季休業中に平日に4日間、学校閉庁日を設定し、休暇を取得しやすい環境を整備した。 ・8月末までの年次休暇取得平均日数は約9.1日と昨年度より増加				教頭	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教職員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する意識が向上したと回答する教職員を80%以上にする	・授業のUD化の促進や特別支援教育に関する研修会の実施 ・関係者間での情報共有の場の設定	B	・特別支援教育職員研修会を6月と9月に実施。				保健部(特別支援)	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★SAGAコラボレーションスクールの推進 ・探究学習の推進 ・地域との連携	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を75%以上、教職員の割合を75%以上にする。 ★県外からの入学者数を5人以上とする。	・地元の課題に目を向けた探究活動を充実させる。 ・「産社」「総探」と各系列の学びを系統的に繋いだ授業を実施する。 ・系列授業を中心として、地元イベントへの参加や住民との積極的な交流を行う。 ・2か月に1回、コンソーシアム会議を開催し、地域等を協働した学校運営を行う。	B	・系列、学年で地元の課題に向き合った探究活動に取り組んでいる。 ・7月時点では、中学生に勧めることができたと回答した生徒は、65.4%(前年同月61.2%)、教職員が65.3%(前年同月65.1%)。				教頭・主幹教諭・企画部 進路・教務・学年・系列	
	★TSUNAGARUプロジェクトの推進 ・多様な学びに向けた教育課程の検討 ・デジタルを活用した交流等の推進 ・地域みらい留学オンライン説明会の実施	★系列の授業に携わる職員を100%にする。 ★「住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手でみらいに伝えていきたい」とする生徒数を50%以上とする。 ★地域みらい留学説明会への参加者を延べ200組以上を目指す。	・多様な学びや体験・交流の場となるリノベーションや系列間のクロス選択を可能とする柔軟なカリキュラムの検討に向け全職員で検討する。 ・zoom等を活用した外部(地域・ナジュ高校等)との交流を推進する。 ・地域みらい留学1期生と共にオンライン説明を実施する。	B	・全職員に担当系列を割り振った。 ・7月時点で地域の価値を伝えたいと回答した生徒は42.3%(前年同月41.0%)・説明会参加者92名。				教頭・主幹教諭・企画部 進路・教務・学年・系列	
○キャリア教育・進路指導	◎キャリア教育の充実による進路意識の向上 ○大学進学指導体制の構築	○1、2年生は、キャリア教育に関する年度末の調査で「働くことの意義について考えることができた」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 ○3年生は、進路決定率を100%とする。	・キャリア教育支援事業や企業、地域等の力を活用した講習やガイダンスを実施する。 ・面接、進路検討会等様々な機会を積極的に設け、生徒の進路希望や進路適性について理解を深め、大学進学者まで対応した特課や個別指導等を実施する。	B	・各学年に対応した進路ガイダンス、上級学校、企業訪問が実施できた。 ・3年生の進路決定率が81.8%である。引き続き100%を目指したい。				進路指導部	
○広報の充実	○中学生、保護者に選ばれる効果的な広報の検討と実践	○公式Instagramのフォロワー数を800人以上にする。 ★学校評価アンケートで「中学生・保護者に選ばれる効果的な広報を検討し、実践している」と回答する保護者を75%以上にする。	・SNS、YouTube等での配信をこまめに行う。 ・学校の魅力を在校生の声を通して地域や中学生に伝える。 ・学校広報関連(HP・パンフレット・青翔ニュース)を充実させる。	B	・インスタフォロワー数884人・在校生による広報を実施した・HPのリニューアルと定期更新の実施した・町の広報誌に高校生が取材した記事を掲載。				事務長・主幹教諭・企画部・事務部	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------